

令和6年3月定例会 あいさつ

皆さま、おはようございます。本日ここに、久山町議会3月定例会を招集しましたところ、議員全員の皆さまにご出席を賜り、誠にありがとうございます。

1月1日、最大震度7の「令和6年能登半島地震」が発生し、2カ月が経ちました。応急仮設住宅への入居や水道の復旧が進みつつありますが、いまだ余震は続いており、約1万2,000人の方々が、過酷な状況の中、避難所生活を続けておられます。今なお、厳しい避難所生活を送っておられる皆さんにお見舞いを申し上げるとともに、一日でも早い被災地の復興を願っております。本町としましても、支援物資だけではなく職員による人材派遣も予定しており、被災地への可能な限りの支援を実施してまいります。

さて、日本国内では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、さまざまなイベントや経済活動も活発化し、コロナ禍前に戻りつつあります。しかし、不安定な世界情勢や円安による物価高騰は、私たちの暮らしに影響を及ぼしています。また、人口減少、少子化・高齢化の加速、ジェンダー平等や脱炭素の実現、毎年発生する大規模な自然災害への対応など、人々の価値観は変化し、社会課題への対応は多様化、複雑化しています。

そのような中、2月12日の西日本新聞朝刊において、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が公表した、2050年の生産年齢人口推計が詳しく掲載されました。全市区町村の4割は生産年齢人口が半減すると予測され、増加が見込める自治体は、千葉県や東京都に集中した19の自治体でした。そのような中、久山町は、全国第16位、2020年に比べ1.5%増の見込みとなっています。増加する自治体の中で、鉄道駅がなく急激な人口流入を抑制してきた自治体は他にはなく、人口の多さや経済規模の大きさだけが持続可能なまちづくりの要素とは言えないことを証明しています。この町で暮らすこと、訪れることで得られる「満足感」「幸福感」を大切にしまちづくりを展開すること

で、さらなる「発展」と「持続性」を高めていくと捉えています。そのため、第4次総合計画にある将来像「だれもが生き生きと暮らせる『健康田園都市』の実現」を目指して、これまで以上に「小さな町の強み」を生かした政策展開に力を入れています。

令和5年度においては、物価高騰対策として、ごみ袋の配布や給食費の物価高騰分支援、高校生の通学定期補助、水稻農業物価高騰対策支援金などの補助を行いました。また、暮らしの環境整備としましては、学校橋の復旧工事や町内の通学路の安全と生活基盤の確保に努めました。教育環境としましては、山田小学校校舎の大規模改修事業を終了し、「久山中学校図書館リニューアル事業」が2年目を迎えました。新規事業としましては、小中学校の児童・生徒が使用するタブレットにプログラミングのアプリを導入し、音楽や歴史の授業での活用によるプログラミング教育が行われています。また、議会の動画配信をはじめ、各種住民サービス申請のオンライン化、キャッシュレス決済への対応も行ってまいりました。令和5年度の歳入については、ふるさと応援寄附金の返礼品の内容や広報に力を入れることで、前年度から約1億4,000万円の増を見込んでおり、各種基金に2億8,500万円程度の積み立てを行う予定です。

エビデンスだけではない、まちづくりに対する価値観への評価を踏まえ、これまで以上に「暮らしの豊かさ」「ウェルビーイングの高い町」を目指していくことで、他の自治体との差別化と競争力が生み出され、さらなる未来に向けた「原動力」となります。その実現に向けて、今後は「住む」「食べる」「学ぶ」「働く」「遊ぶ」というまちづくりの要素を軸に、本町の強みである自然の恵みを生かしながら、人や物の「つながり」を深め、「好循環」を生み出していくことが重要だと捉えています。

令和6年度の当初予算では、引き続き物価高騰対策を図りながら、暮らしの豊かさを実感できる「つながり」を意識した予算編成を行いました。

予算編成の主な概要についてご説明します。令和6年度久山町一般会計予算は、歳入歳出予算の総額を63億7,700万円とし、令和5年度より4億900万円、6.9%増となっています。歳入は、固定資産税や町民税などの税収で若干の増額を見込んでおり、毎年増加しているふるさと応援寄附金も増額で計上しています。国県支出金等の活用に加え、町の基金も活用しながら、物価高騰対策および投資的事業を同時に行ってまいります。

令和6年度の主な事業を分野ごとにご紹介します。

「健康福祉」分野では、「子育てつながるプロジェクト事業」を引き続き実施します。また、「シニアチャレンジ応援事業」を拡充し、映画やカラオケだけでなく、飲食店でもクーポンが利用できるようにします。新規事業としては、健康維持に大切な「笑い」を提供する「シニアスマイル講演会」を計画しています。さらに、子育て世代に向けた新規事業として、絵本の読み聞かせを通じて保護者、小中学生、地域のつながりを深めることを目的に「ひさやまブックツリー事業～絵本大好き大作戦～」を福祉課、健康課、教育課の3課連携でスタートします。また、子ども家庭センターの設置も行い、町民の皆さまが相談しやすい体制づくりに努めてまいります。

「教育」分野では、3年目を迎える「久山中学校図書館リニューアル事業」のほか、山田小学校体育館の天井などの施設改修を実施するとともに、久山会館や久山中学校体育館、町民体育センターの空調整備を実施します。

「産業」分野では、「プレミアム付き商品券発行事業」や「電子決済導入支援事業」などを引き続き行います。また、今年度売却した「Jークレジット」を林業従事者に還元するために、林業経営体活動助成金を交付し、林業維持を支援します。

「暮らし」分野では、高橋～原線、古賀ノ脇線、山田～久原1号線の舗装改修や橋梁等の整備のほ

か、フォレストロードの整備を行います。また、大雨災害に備えた全町的な防災訓練を6月に予定しています。

「地域経営」分野では、自治体DXを加速させ、住民の皆さまの利便性を図るために、システムの標準化や戸籍情報システムの整備を進めていきます。

「物価高騰支援」としましては、引き続き、ごみ袋の全世帯配布を行います。学校給食費の補助については、本年度の値上げ額に合わせて補助額を増額し、保護者の負担額が1食当たり270円で維持されるように支援します。農家への水稻農業物価高騰対策支援は、補助率を前年より5%引き上げ、30%で支援します。

以上が、令和6年度の主な予算編成の概要です。令和6年度も社会情勢や経済動向を注視し、状況に応じて物価対策支援等を柔軟に行ってまいります。

令和5年度は、官公庁や企業、団体、メディアなど、本町の「今」と「未来」に向けたまちづくりに注目をいただき、全国的に町の魅力の発信につながった年となりました。しかしながら、久山町においても、行政区、組合、消防団、子ども会等、コミュニティ組織の維持、存続などが難しい問題となりつつあります。久山町の豊かさを次世代につないでいくために、新たな交流を生み出し、時代の変化に即した「つながり」の再編に、町民の皆さまをはじめ、議会の皆さまと共に挑戦してまいります。引き続き、議会の皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本会議に提案します案件は、令和5年度補正予算、令和6年度予算等、14議案でございます。

詳細につきましては、各担当課長が議案説明会においてご説明いたします。ご審議のほど重ねてお願い申し上げます。

令和6年3月1日

久山町長 西村 勝